

# 薬剤科

中多 泉

薬剤科では、当センターの運営方針に基づき、10項目（病棟薬剤業務実施加算の推進、薬剤管理指導業務の充実、医療安全の確保・診療の質の向上、がん化学療法における安全および質の向上、チーム医療への積極的関与、専門薬剤師の育成・研修受入体制の推進、薬学生長期実務実習受入体制の充実、材料費の縮減、治験・臨床研究の推進および教育、継続的な組織運営のための人材育成）を基軸として各種業務を実践している。また、実践業務においては医療安全の確保と経済性効率を勘案しつつ、医師、看護師および多職種の方々の協力を得ながら主体的に薬物療法に参加することで、医薬品の適正使用推進に向けて日々努力している。

## 1. 病棟薬剤業務実施加算・薬剤管理指導業務

平成24年度診療報酬改定では、薬剤師が病棟で薬物療法の有効性、安全性の向上に資する業務を実施することが評価され、入院基本料の加算として病棟薬剤業務実施加算が新設された。その主な業務は、(1) 入院患者に対する最適な薬物療法の実施による有効性・安全性の向上 (2) 疾病の治癒・改善、精神的安定を含めた患者のQOLの向上 (3) 医薬品の適正使用の推進による治療効果の向上と副作用の防止による患者利益への貢献 (4) 病棟における薬剤（注射剤、内服剤等）に関するインシデント・アクシデントの減少 (5) 薬剤師の専門性を活かしたチーム医療の推進 であり、薬剤科ではこの業務に平成24年4月よりいち早く取り組んでいる。(2,681件/月)

病棟に常駐する薬剤師は、回診・カンファレンスにおいて各種情報（検査データ、投与中止、重複処方、投与量の変更確認、開始時間の確認）を収集し、注射薬の溶解時の安定性や配合変化をチェックした上で、病棟内の移動式クリーンベンチで一般注射薬の無菌調製を実施している。(4,773本/月)

また、全入院患者の持参薬情報を電子カルテに入力し医師へ情報提供を行っている。

薬剤管理指導業務は、救命救急センターを含めた全病棟を対象に行っており、各主任をヘッドとしたチームに副主任を配置することで一層の業務効率化を図っている。(1,063件/月)

## 2. 抗癌剤・IVH製剤の無菌調製

良質な医薬品の供給を目的に、薬剤科注射薬室の無菌室において一元的に、クリーンベンチ・安全キャビネットを用いた無菌混合調製を実施している。

抗癌剤に関しては平成14年7月に外来化学療法室が開設され、全診療科の外来患者を対象に月間714本の無菌調製を行っている。また入院患者に対しては、17年度より取り組みを始めており、月間1,669本の調製を行っている。また、がん薬物療法委員会において承認されたプロトコールを対象に、薬剤科でプロトコールチェックを行い、安全管理の徹底を図っている。

## 3. 医薬品情報管理（収集・整理・評価・提供）

医薬品は有効性と安全性を確保しつつ適正に使用されなければならない。そのためには医療情報は、正確かつ適正に管理する必要がある。薬剤科では医薬品情報の適正な管理と供給を行うために専任スタッフを配置している。また、厚生労働省への医薬品・医療機器副作用報告も積極的に行っ

ている。(11件/年)

#### 4. 治験・臨床研究業務

治験実施にあたっては、GCPに基づく国際的な評価に値するデータ作成が求められている。薬剤科では、治験・臨床研究の支援業務を行う専任薬剤師CRC（治験主任薬剤師1名、薬剤師1名）を配置している。

#### 5. HIV 感染症患者への服薬支援の強化

HIV 感染症患者に対しては、担当薬剤師3名（専従2名、併任1名）を配置することで円滑な服薬支援体制を構築している。また、感染症科外来に隣接した「お薬の相談室」を設置し、薬剤師が常駐することで患者動線の改善、医師・看護師との緊密な連携が強化でき、より多くの長期患者に対してのフォローが実践できている。(221件/月)。

#### 6. 専門薬剤師の育成・研修受入体制の推進

日本病院薬剤会 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修施設、日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設の認定を受けている。また、薬学部6年制に伴う薬学生長期実務実習生は33名を受け入れた。

#### 7. 臨床研究業績

論文投稿、学会発表等は以下の通りである。

今年度は、国内学会誌に4論文、国際学会に1演題を報告した。

##### 【2012年度研究発表業績】

##### A-3

吉野宗宏、矢倉裕輝、櫛田宏幸、米本仁史、廣田和之、板東裕基、矢嶋敬史郎、小泉祐介、大寺博、富成伸次郎、渡邊大、栗原健、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：当院における1日1回投与ダルナビル/リトナビルの使用成績「日本エイズ学会誌」(14)：P.141-145、2012年6月

矢倉裕輝、柴田麻由、赤崎晶子、金子恵子、吉野宗宏、櫛田宏幸、山内一恭、本田芳久、小森勝也、上平朝子、白阪琢磨、寺岡麗子、栗原健、北河修治：抗HIV薬の懸濁時における安定性に関する検討「医療薬学」38(10)：P.634-641、2012年10月

中蔵伊知郎、山下大輔、杉山喜久、和田恭一、老田章、小原延章：外科系集中治療病棟における特定集中治療室管理料算定患者に対する「薬剤管理指導量1」算定状況と患者背景「医療(国立医療学会)」66(11)：P.615-619、2012年11月

中蔵伊知郎、山下大輔、堀部明美、和田恭一、老田章、小原延章、佐田誠：感染対策室術後急性腎機能障害患者に対しての高用量Liposomal AmphotericinB長期使用経験「日臨救急医会誌(JJSEM)」16(1)：P.21-24、2013年1月

#### A-4

吉野宗宏：後天性免疫不全症候群「薬局」63：P.737-740、2012年4月

吉野宗宏：薬剤師による HIV 感染者サポートの現状と課題「HIVBODY&MIND」1(1)：P.52-57、2012年6月

矢倉裕輝：日和見感染症とその治療薬「月刊薬事」54(9)：P.41-46、2012年9月

#### A-6

吉野宗宏：HIV 感染症専門薬剤師の役割「薬事新報」27(41)：P.15-20、2012年7月

#### B-2

Katsuya Makihara, Hideyuki Mishima, Sayaka Azuma, Kazuyo Miyagi, Katsuya Komori, Hiroko Hasegawa, Masayoshi Yasui, Masakazu Ikenaga, Toshimasa Tsujinaka. : Plasma concentrations of 5-FU and creatinine clearance as predictive markers for severe toxicities of capecitabine in patients with colorectal cancer. ASCO 2013 Gastrointestinal Cancers Symposium, San Francisco, USA, 2013年1月

#### B-3

吉野宗宏：HIV 感染症認定、専門薬剤師—その拡がり—と保険調剤薬局との連携—HIV 感染症認定、専門薬剤師—保険調剤薬局との連携—。第22回日本医療薬学会年会、新潟、2012年10月

山内一恭：国立医療における薬剤師の役割～未来を見据えた取り組み～未来を見据えた薬剤科業務-大阪から日本を変える-。第66回国立病院総合医学会シンポジウム、神戸、2012年11月

吉野宗宏：「服薬の達人への道」～陽性者アンケートから見えてくる長期服薬支援のポイント～。第25回日本エイズ学会学術集会、東京、総会ランチョンセミナー、2012年11月

吉野宗宏：HIV 感染症診療における薬剤師の役割。日本薬学会第133回年会シンポジウム、神奈川、2013年3月

#### B-4

木原理絵、関本裕美、上野裕之、山内一恭、本田芳人、小森勝也、加藤研、瀧秀樹：リラグリチド血糖降下作用への影響因子について。第55回糖尿病学会年次学術集会、神奈川、2012年5月

加藤あい、増田慎三、榎原克也、上野裕之、山内一恭、本田芳久、四方文子、八十島宏行、水谷麻紀子、山村順、小森勝也：ドセタキセルの副作用予防に対する前日からのステロイド服用の効果。第20回日本乳癌学会学術総会、熊本、2012年6月

田中景子、榎原克也、宮城和代、梨あゆみ、里見絵里子、上田純子、廣畑和弘、山内一恭、廣常秀人、小森勝也：がん疼痛患者におけるプレガバリンの服薬中止と腎機能との関連について。第18

回日本緩和医療学会学術大会、神奈川、2012年6月

矢倉裕輝、大歳奈美子、大野靖子、寺岡麗子、吉野宗宏、櫛田宏幸、廣畑和弘、山内一恭、本田芳久、上平朝子、白阪琢磨、栗原健、小森勝也、北河修治：Ritonavir 製剤における剤形間の溶出挙動に関する比較検討。医療薬学フォーラム2012第20回クリニカルファーマシーシンポジウム、福岡、2012年7月

Katsuya Makihara、Sayaka Azuma、Kazuhiro Hirohara、Kazutaka Yamauchi、Katsuya Komori：Examination of total bilirubin as a predictive marker for irinotecan-induced toxicity.第11回日本臨床腫瘍学会学術集会、仙台、2012年8月

梅原玲緒奈、早川直樹、小野亜矢子、間麻里、槇原克也、川端一功、廣畑和弘、山内一恭、小森勝也：医療安全を考慮した注射液調製方法についての検討～メトトレキサート大量療法～。第22回日本医療薬学会年会、新潟、2012年10月

矢倉裕輝、吉野宗宏、櫛田宏幸、廣畑和弘、山内一恭、上平朝子、小森勝也、白阪琢磨：HIV感染症患者におけるST合剤の先発、後発医薬品の脱感作療法および製品比較。第22回日本医療薬学会年会、新潟、2012年10月

阿部正樹、村井彩紗、木原理絵、中蔵伊知郎、服部雄司、関本裕美、廣畑和弘、山内一恭、小森勝也：トルパプタン長期使用における安全性、有効性の検討。第22回日本医療薬学会年会、新潟、2012年10月

西澤雅美、梨あゆみ、川端一功、難波良信、横田総一郎：肺がん治療における化学療法サポートチームの取り組み。第50回日本癌治療学会学術集会、神奈川、2012年10月

槇原克也、三嶋秀行、東さやか、松山和代、廣畑和弘、山内一恭、小森勝也、長谷川裕子、安井昌義、池永雅一、辻仲利政：カペシタビン投与後の5-FUとその他の代謝物との関連—my5FUによる個別化治療への試み—。第50回日本癌治療学会学術集会、神奈川、2012年10月

加藤あい、槇原克也、廣畑和弘、山内一恭、八十島宏行、水谷麻紀子、山村順、増田慎三、小森勝也：進行再発乳癌へのbevacizumab-paclitaxel併用療法の使用経験～安全性の視点から～。第50回日本癌治療学会学術集会、神奈川、2012年10月

関本裕美、河合実、槇原克也、吉野宗宏、川端一功、土井敏行、早川直樹、廣畑和弘、山内一恭、本田芳久、小森勝也：病棟薬剤業務実施に向けての取り組みと現状。第66回国立病院総合医学会、神戸、2012年11月

服部雄司、阿部正樹、関本裕美、廣畑和弘、山内一恭、小森勝也：救急、集中治療領域における薬剤師の役割。第66回国立病院総合医学会、神戸、2012年11月

河合実、関本裕美、榎原克也、吉野宗宏、川端一功、土井敏行、早川直樹、上野裕之、廣畑和弘、山内一恭、本田芳久、小森勝也：当院における長期病院実務実習の評価方法の標準化への取り組みと現状。第 66 回国立病院総合医学会、神戸、2012 年 11 月

江並亜希子、増田慎三、山村順、八十島宏之、水谷麻紀子、正岡美幸、高田聖子、林奈央、山本恵、四方文子、上田純子、加藤あい、榎原克也、阿島美奈、宮本ひとみ、渡津千代子：乳癌 DTX 療法と過敏症の発症に関する検討-過敏症に対する投与方法の工夫-。第 66 回国立病院総合医学会、神戸、2012 年 11 月

浦田正司、江並亜希子、庄野裕志、林奈央、高田聖子、正岡美幸、山本美恵、風間敬一、上野裕之、三嶋秀行、辻仲利政：外来化学療法で栄養不良に陥らないために-簡易栄養評価法を用いた栄養スクリーニングと栄養指導-QC 活動報告のその後。第 66 回国立病院総合医学会、神戸、2012 年 11 月

榎田宏幸、矢倉裕輝、吉野宗宏、廣畑和弘、山内一恭、小森勝也、上平朝子、白坂琢磨：大阪医療センターにおける抗 HIV 薬の処方動向について。第 66 回国立病院総合医学会、神戸、2012 年 11 月

北川智彦、原田潤、前川則彦、細川徹、飯塚祐一郎、大竹野浩史、小西佳之、栗山啓子、服部雄司、松本洋美、若井聡智、定光大海、岩井康典：災害時におけるクラウドを用いた画像送受信システムの検討②送受信について。第 66 回国立病院総合医学会、神戸、2012 年 11 月

飯塚祐一郎、北川智彦、岩井康典、前川則彦、細川徹、大竹野浩史、小西佳之、栗山啓子、服部雄司、松本洋美、若井聡智、定光大海：放射線トリアージを想定した二次被ばく医療施設の対応。第 66 回国立病院総合医学会、神戸、2012 年 11 月

梅原玲緒奈、早川直樹、小野亜矢子、間麻里、榎原克也、川端一功、廣畑和弘、山内一恭、小森勝也：メトトレキサート大量療法における注射液調製方法についての検討。第 66 回国立病院総合医学会、神戸、2012 年 11 月

土井敏行、石山薫、小野恭子、木島、かおり、北川智子、辻本有希恵、柚本育世、多和昭雄、是恒之宏、楠岡英雄：症例集積性の向上を目的とした病診連携、病病連携について。第 66 回国立病院総合医学会、神戸、2012 年 11 月

北川智子、石山薫、柚本育世、三賀森美央、辻本有希恵、木島かおり、小野恭子、土井敏行、多和昭雄、楠岡英雄、是恒之宏：臨床研究支援の在り方に関する検討-事務局、CRC 双方の視点から-。第 33 回日本臨床薬理学会、沖縄、2012 年 11 月

吉野宗宏、矢倉裕輝、榎田宏幸、米本仁史、廣田和之、矢嶋敬史郎、小泉祐介、大寺博、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白坂琢磨：当院における 1 日 1 回投与 darunavir/ritonavir の使用成績(第 2 報)。

第 25 回日本エイズ学会学術集会、東京、2012 年 11 月

矢倉裕輝、吉野宗宏、櫛田宏幸、米本仁史、廣田和之、矢嶋敬史郎、小泉祐介、大寺博、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨、小森勝也：Darunavir 1 日 1 回投与時の薬物動態に関する検討。第 26 回日本エイズ学会学術集会、東京、2012 年 11 月

矢倉裕輝、吉野宗宏、櫛田宏幸、上平朝子、白阪琢磨、小森勝也：抗 HIV 薬の簡易懸濁法適用に関する検討第 2 報。第 26 回日本エイズ学会学術集会、東京、2012 年 11 月

槇原克也、三嶋秀行、東さやか、宮城和代、長谷川裕子、小森勝也、安井昌義、池永雅一、辻仲利政：My5-FU の活用によるカペシタビンの薬物動態に基づいた至適用量設定への試み。日本臨床腫瘍薬学会 2013、東京、2013 年 3 月

田中景子、槇原克也、宮城和代、廣畑和弘、山内一恭、小森勝也：プレガバリンの副作用発現に係わる背景因子の解析。日本臨床腫瘍薬学会 2013、東京、2013 年 3 月

東さやか、槇原克也、廣畑和弘、山内一恭、小森勝也：イリノテカンの有害事象発現に関連する要因の解析～用量設定指標の検索を目指した後方視的研究～。日本臨床腫瘍薬学会 2013、東京、2013 年 3 月

関本裕美、中蔵伊知郎、服部雄司、河合実、廣畑和弘、山内一恭、小森勝也：汎発生血管内血液凝固症における遺伝子組換えトロンボモデュリンアルファの効果と副作用について。第 77 回日本循環器学会学術集会、神奈川、2013 年 3 月

#### B-6

藤尾弥希、槇原克也、東さやか、庄野裕志、河合実、廣畑和弘、山内一恭、小森勝也：ゲムシタビン投与における肥満度と相対用量強度および有害事象との関連。第 34 回日本病院薬剤師会近畿学術大会、滋賀、2013 年 1 月

阿部正樹、村井彩紗、木原理絵、中蔵伊知郎、服部雄司、関本裕美、廣畑和弘、山内一恭、小森勝也：当院におけるトルパプタンの使用状況。第 9 回近畿国立病院薬剤師会学術集会、大阪、2013 年 3 月

#### B-8

矢倉裕輝：服薬経験者の留意点、服薬継続のための工夫、相互作用。近畿ブロック医療相談会、大阪、2012 年 6 月

吉野宗宏：抗 HIV 薬血中濃度測定の意義。第 5 回近畿 HIVFRONTIER 研究会、2012 年 7 月

矢倉裕輝：抗 HIV 薬について-現状と最新情報-。第 15 回 POP ミーティング（患者会主催）、大阪、2012 年 8 月

吉野宗宏：抗 HIV 薬服薬指導の実際。平成 24 年度エイズ看護プロジェクト看護師研修、2012 年 9 月

吉野宗宏：薬剤師の役割と服薬指導。平成 24 年度 HIV 感染症研修会、2012 年 9 月

吉野宗宏：HIV 感染症治療における保険薬局の関わり方—患者アンケートから見えてくるもの—。第 110 回中央区医薬品情報研修会、大阪、2012 年 9 月

吉野宗宏：HIV 感染症治療と薬剤師の関わり。東住吉区・平野区合同研修会、大阪、2012 年 9 月

吉野宗宏：抗 HIV 薬の現状と服薬指導。平成 24 年度 HIV 感染症医師実地研修会(1 ヶ月コース)、2012 年 10 月

吉野宗宏：HIV 感染症治療における保険薬局の関わり方—患者アンケートから見えてくるもの—抗 HIV 薬血中濃度測定の意義。沖縄抗 HIV 薬勉強会、沖縄、2012 年 10 月

吉野宗宏：抗 HIV 薬血中濃度測定の意味。第 27 回茨城 HIV 感染症研究会、茨木、2012 年 10 月

吉野宗宏：抗 HIV 薬服薬指導の実際。平成 24 年度エイズ看護プロジェクト看護師研修応用編、2012 年 11 月

吉野宗宏：HIV 感染症治療における保険薬局の関わり方—患者アンケートから見えてくるもの—。第 5 回保険薬局 HIV ミーティング、2012 年 12 月

矢倉裕輝：抗 HIV 薬と ART の変遷と問題点、副作用と合併症。中・四国ブロック医療相談会、岡山、2013 年 2 月

矢倉裕輝：抗 HIV 薬の簡易懸濁法/日和見感染症治療薬等との相互作用について。平成 24 年度東北エイズ/HIV 臨床カンファレンス、2013 年 2 月

吉野宗宏：抗 HIV 療法—最近の動向。第 5 回大阪抗 HIV 薬勉強会、大阪、2013 年 2 月

吉野宗宏：当院における抗 HIV 薬の使用経験-最近の話題-。第 6 回九州抗 HIV 薬勉強会、2013 年 2 月

## B-9

小森勝也：正しい薬ののみ方（第 1 話～第 5 話）。「健やかライフ（朝日放送ラジオ）」、大阪、2012

年 5 月